

勳章軍醫中隊

小津三渡

勳章軍醫中隊

昭和十八年五月十六日

勳章軍醫中隊

勳章軍醫中隊

勳章軍醫中隊

勳章軍醫中隊

勳章軍醫中隊

市川六三

勳章軍醫中隊

勳章軍醫中隊

請給與金證明書



本籍地

現住所

所屬部隊 第六十三師團獨立步兵第十五大隊機關銃中隊

官氏名 故陸軍上等兵 市川六三

右者對照昭和十七年一月三日陸軍省告示第二號

大東亞戰役中係以死役者特別賜與金賜與規程第三條

第三項之請給與金支給シテラハルコトヲ證明ス

昭和二十年二月五日 獨立步兵第十五大隊長 飯塚豊三郎



付	部	任	法	家訓	高	長	謀	參	長	團	師
付	部	任	法	家訓	高	長	謀	參	長	團	師

2			六	事實 證明書	病歷書	證明書	死亡 證明書	所屬 部隊	後送 一陸	吉川 弘
			五	證明書	證明書	證明書	證明書	所屬 部隊	後送 一陸	吉川 弘

石師副合恩第五號  
 恩賞關係書類送付、件通牒  
 昭和二十年二月三日 第六十二師團司令部  
 步兵第百九聯隊補充隊御中  
 左記者二對上首題件別紙、通送付又  
 左記



石六三根恩第四號

恩賞関係書類送付件報告

昭和二十年二月二十五日

石第三五九一部隊

石第八八三部隊御中

首題一件左記、通送付ス

左記

摘要

恩賞関係書類

證明書

所属部隊階級

氏名

七

大

東都 軍夫

吉川

弘 石

昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日
昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日
昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日
昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日
昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日
昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日
昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日
昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日
昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日
昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日	昭和三十九年八月八日

事實證明書

本籍地  
現住所

第六十三師團步兵第六十三旅團通信班

昭和十八年徵集

陸軍二等兵 吉川 弘

内地臺灣出發年月日  
昭和三十九年二月四日博多港出發  
昭和三十九年二月六日山海關通過

一 勤務概要

自昭和三十九年八月八日  
至昭和三十九年八月八日  
自昭和三十九年八月八日  
至昭和三十九年八月八日  
自昭和三十九年八月八日  
至昭和三十九年八月八日  
自昭和三十九年八月八日  
至昭和三十九年八月八日  
自昭和三十九年八月八日  
至昭和三十九年八月八日

晉中晉東南地區警備  
京漢作戰參加  
河南中部地區警備  
南西諸島へ作戰多開封出發  
中支那江蘇省吳松出發  
沖繩縣那霸市上陸

一發病年月日

昭和十九年八月二十五日

一發病場所

沖繩縣中頭郡宜野灣村

一病名

一發病狀況

沖繩縣中頭郡宜野灣村ニ於テ作戰準備ニ從事中昭和十九年八月二十五日頃ヨリ全身ニ倦怠ヲ感ズルニ到リタルモ介意セズ稍勸中九月四日頃十分頃突然腹痛ヲ訴ヘ轉々及側セリ疼痛ハ約三時間後ニ輕減セルモ精査加療ノ目的ヲ以テ送院ス

右ハ昭和十九年三月六日健康体ヲ以テ渡支爾後北支留省アリテ日夜猛烈ナル初年兵本業基本教育ヲ受ケル傍繁激ナル警備勤務ニ從事ス昭和十九年四月初旬京漢作戰開始セラシヤ有線通信キトシテ参加シ炎熱瘴癘ノ地河南ノ戰野ニ進攻シ炎熱ノ下日夜ヲ分クナル機動ニ從ヒアリタリ、而シテ水質氣候風土激變之ニ加フルニ眠不休ノ機動作戦ト九十度ヲ超セル酷暑中ヲ敗走ス敵ヲ追撃或ハ豪雨中ヲ或ハ氾濫スル河水ヲ強行渡河等晝夜ヲ分ケル猛進連續ニシテ身体ハ極度ニ疲勞シ加フルニ作戰ノ推移ニ從ヒ輸送用滑ヲ缺キ糧秣不足ヲ來シ粗悪ナル代用食ヲ頻用トナレリ又作戰地ノ各部落ハ荒廢セルモノ多ク為ニ宿營家屋不良休養十分ナラザル等若シク抵抗カヲ減少シ体カハ低下ヲ招來セリ

實事

六月以降葉縣開封上海沖繩本島ト相次ク轉進ニ當リテハ一貨車三十名船艙内ニ於テハ半十名起居ヲナスノ狀況ニシテ加フルニ通風極メテ悪ク蒸シ暑クシテ悪臭發散著シノ頭痛眩暈感起リ其苦痛大ナルモノアリタリ本島ニ上陸スルヤ旅團通信班ハ中頭郡宜野灣村ニ進駐シ昼夜連續作戰準備ニ没頭セリ

右ハ認めベキ既往症ナク又家族歴ヲ徵スルモ何等遺傳的疾患ヲ認メズ全ク健康体ヲ以テ入營渡支セルモノニシテ之ノ原因ヲ察スルニ前述ノ如キ惡環境不充ナル給養休養ノ下連日連夜不眠不休ノ作戰ニ從事シ体力及抵抗力著シク低下シ之ノ回復ノ暇ナク北支ト風土ヲ全ク異ニシ炎熱濕度大ナル本島ニ上陸シ不完全非衛生的ナル環境ニ入りテ作戰準備ニ從事シタル多ク遂ニ發病スルニ至リタルモノニシテ之ノ全ク公務ニ起因スルモノト認め

昭和十九年九月八日

第六十二師團步兵第六十三旅團通信班班長 陸軍中尉 貴島義隆  
第六十二師團野戰病院附 陸軍軍醫中尉 神原祥一



一發病年月日

昭和十九年八月

一發病場所

沖繩縣中頭郡宜野灣村

一病者六十二師團

陸軍中將 轉京第一

一發病者十二師團 陸軍中將 貴島 義到

一發病者 陸軍中將 貴島 義到

一發病者 陸軍中將 貴島 義到

一發病者 陸軍中將 貴島 義到

一發病者 陸軍中將 貴島 義到

一發病者 陸軍中將 貴島 義到

一發病者 陸軍中將 貴島 義到

一發病者 陸軍中將 貴島 義到

一發病者 陸軍中將 貴島 義到

一發病者 陸軍中將 貴島 義到

一發病者 陸軍中將 貴島 義到

一發病者 陸軍中將 貴島 義到

實事訂正

陸軍中將 貴島 義到

本籍地

現住所

第六十二師團步兵第六十三旅團通信班

昭和十八年徵集 陸軍一等兵 吉川 弘

一病名 肺 浸潤

一決定年月日 昭和十九年十一月十七日

一公務起因及理由 本症、別紙所屬部隊長調製

事實證明書、勤務ニ由リ發病

セルモノト認め

右證明ス

昭和十九年十一月十七日

沖繩陸軍病院長

陸軍中將 廣池 文吉